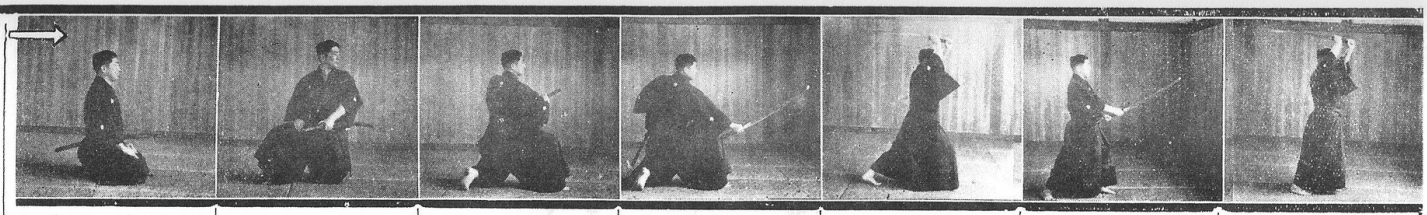
著合　大日本武德會柔道術合居教士　中崎辰九郎
　　同　居合術錬士　迫一郎

伯耆流居合術

伯耆流居合術振興會發行

目次

一、居合術の本領……1
二、伯耆流……4
三、居合術修行の態度……5
四、居合術の基本……6
禮法……6
刀の握り方……9
抜き打……10
打ち込……13
五、伯耆流の事……14
六、事の解説……15
七、居合術修行者心得一束……47



突留	第一圖	第二圖	第三圖	第四圖	第五圖	第六圖	第七圖
事	正面より腹を突きかゝる者あり	體を左にかはし、柄を以て敵の刀を打つ	突きあやまちて退き乍ら次の技にうつらんとする敵に對し向き直つて拔打の構	拔打ち	退く敵を斬らんと、上段にふりかぶり乍ら立ち上りつゝ	一歩進んで正面より斬り下して倒す	殘心
要領		○右足を後方に開きて體をかはし ○左拇指を鍔にかけて、體をまわす勢を加へて ○左手を大きく前より右方に拂つて柄を以て敵の刀背を叩く	○右手を柄にけか乍ら ○左の膝、肩の線を軸とし ○右足を床をする如くにして前方に出し、輕快に廻轉す	○眞上より拔打つ	○其の場に立ち上りながら ○上段にふりかぶる	○左足をふみ込んで ○正面より斬り下す ○エイと氣合發聲	○右足を左足に近づけ ○上段に構へて殘心
注意		○顏は必ず敵方に向くる ○柄の背部にて、敵の突き來る刀を流すが如く左上より右下に打つ					○以下引きあげより刀を納むるに至るまで拔留と同じけれども、此の場合左足前なる故、後退は三歩となる